

第202回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2024年11月下旬～12月上旬
調査対象期間	2024年10月～11月実績・12月予想値 2025年1月～3月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1,629社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	584社
回答率	35.8%
調査方法	調査票郵送による回答、インターネットによる回答
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 〔例:売上DIの場合〕 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業
45%

「変わらず」
20%

売上が「減少」した企業
35%

$$45\% - 35\% = 10 \quad \longleftarrow \text{売上DI}$$

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	31	21	30	3	26	22	2	32	167	28.6%	28.6%
5～10	56	21	7	4	35	14	6	19	162	27.7%	56.3%
11～20	52	13	5	3	21	7	4	3	108	18.5%	74.8%
21～30	22	4	3	2	5	6	5	1	48	8.2%	83.0%
31～50	18	3	1	3	0	5	2	2	34	5.8%	88.9%
51～100	10	5	5	0	4	8	7	2	41	7.0%	95.9%
101～	9	3	1	1	1	3	2	2	22	3.8%	99.7%
従業員数不明	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0.3%	100.0%
計	198	70	53	16	93	65	28	61	584	100.0%	
構成比	33.9%	12.0%	9.1%	2.7%	15.9%	11.1%	4.8%	10.4%	100.0%		

売上D Iは2.5（前回比+8.6ポイント）、収益D Iは-8.3（前回比+3.5ポイント）となり、前回調査時の10-12月期の見通しと比べ、売上D Iは1.9ポイント上振れし、収益D Iは2.2ポイント下振れました。

売上D Iは、製造業が-7.6（前回比+2.9ポイント）、卸売業が1.4（前回比+7.9ポイント）、小売業が7.6（前回比+7.6ポイント）、飲食業が31.1（前回比+58.4ポイント）となるなど、全業種で前回調査から上昇しました。上昇した背景には、年末商戦が大きな好影響となっていますが、先行きの見通しは不動産を除く全ての業種で下落すると予想しています。過去3年間の推移でも一進一退を繰り返し、景気回復に向けた突破口は未だ見えない状況にあります。

販売価格D Iは、16.7（前回比+3.4ポイント）、販売数量D Iは-7.9（前回比+3.5ポイント）となりました。年末商戦を主な要因として、価格・数量ともに前回から上昇しました。

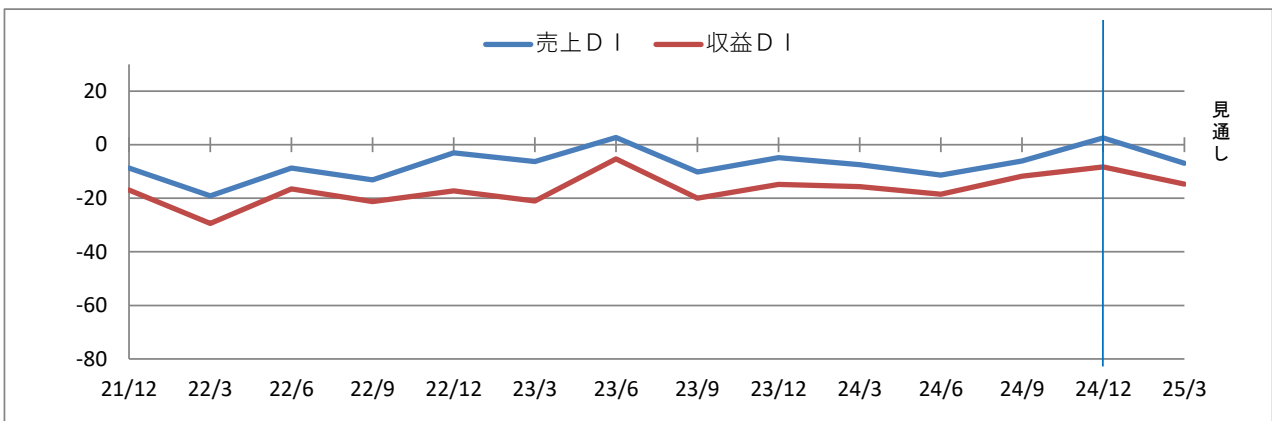
2025年1-3月期は、売上D Iが9.4ポイント、収益D Iが6.4ポイント、販売価格D Iが1.7ポイント、販売数量D Iが5.1ポイントそれぞれ下落すると予測しています。年末商戦からの反動や、未だ続く物価高・円安による影響に加え、消費者の強まる節約志向を背景に、先行き不透明感が色濃く表れています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が73.2%（前回比+2.4ポイント）、「売上停滞減少」が51.2%（前回比+3.2ポイント）、「一般経費増大」が47.4%（前回比+0.4ポイント）となり、一層深刻化しています。また、「人手不足」は運輸業が67.9%（前回比+2.7ポイント）、建設業が59.8%（前回比+3.2ポイント）、飲食業が53.3%（前回比+1.2ポイント）、サービス業が53.2%（前回比+10.7ポイント）となり、大きな経営上の問題です。

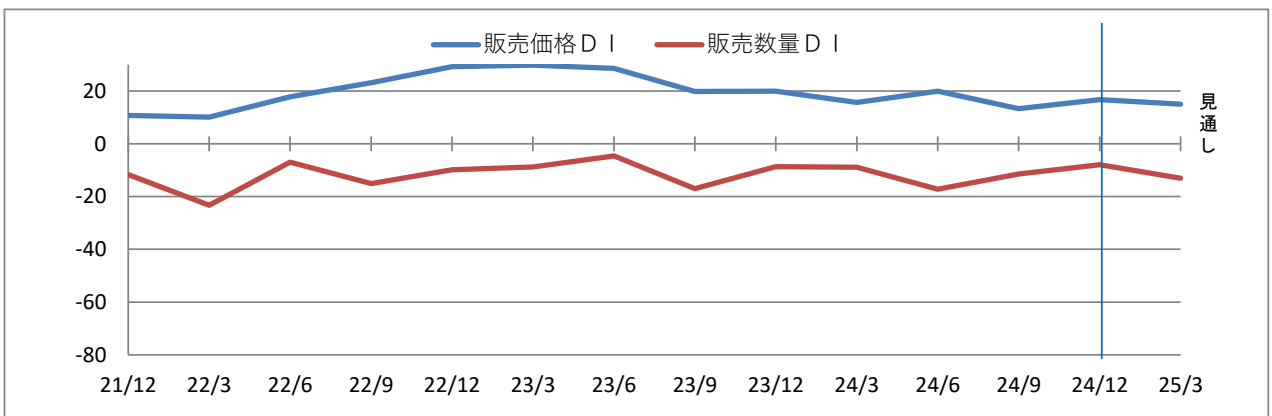
設備投資は「実施中」13.4%（前回比+1.6ポイント）、「予定あり」10.6%（前回比+1.3ポイント）の合計24.0%となり、飲食業を除き陰りが見られました。

売上D I・収益D Iの推移

n= 584

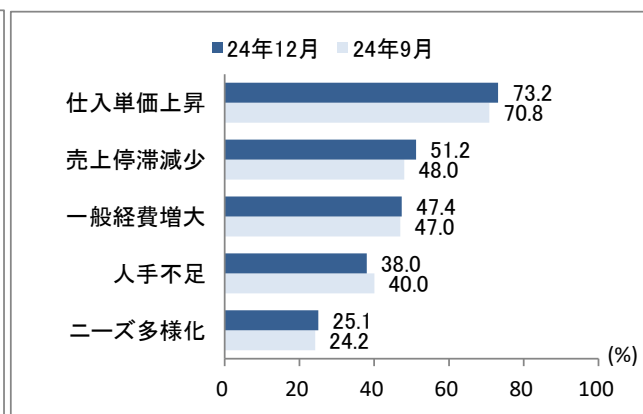
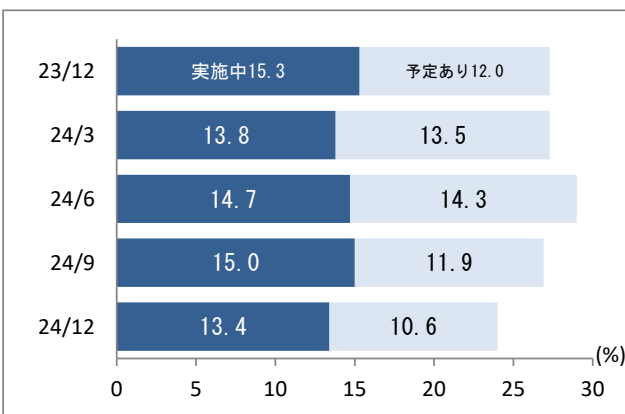


販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向

経営上の問題点



製造業

採算見て受注獲得 回復阻む材料高

売上D Iは－7.6（前回比＋2.9ポイント）、収益D Iは－19.5（前回比△1.8ポイント）となり、前回調査時の10-12月期の見通しと比べ、売上D Iは1.1ポイント、収益D Iは7.1ポイントそれぞれ下振れました。

2025年1-3月期は、売上D Iが8.8ポイント、収益D Iが2.8ポイントそれぞれ下落し、販売価格D Iが2.0ポイント上昇し、販売数量D Iが1.5ポイント下落すると見込んでいます。

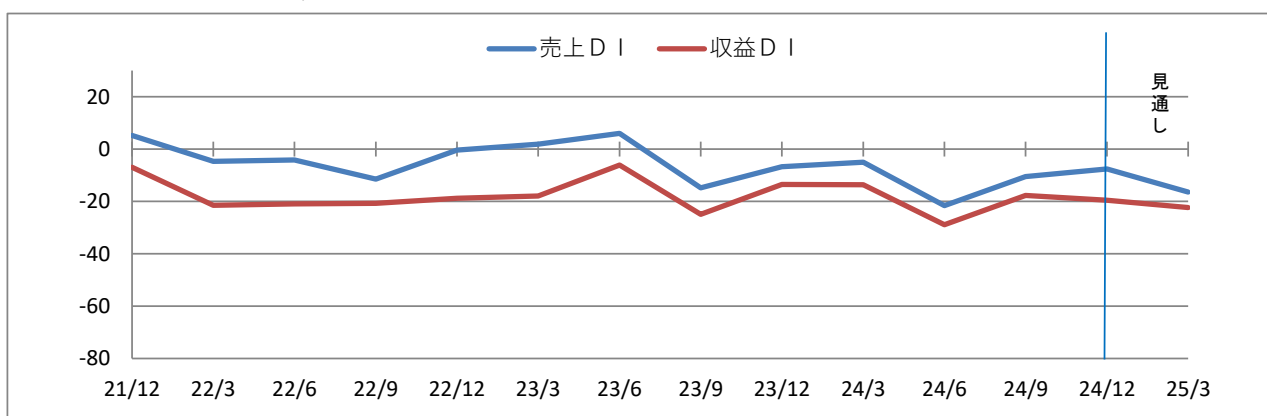
企業からは、「国内需要がない中で円安によって大手メーカーは販売台数が減っても売上高を確保しているらしいが、それが中小企業に降りてこない」、「円安による材料高で、値上げしてもそれを上回る円安が続き、利益の確保が難しい」との声が聞かれました。市場の仕事量は増加している感はあるが、採算性の悪い受注を選別して敬遠しようとしています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が82.2%（前回比△2.0ポイント）、「売上停滞減少」が65.5%（前回比＋6.6ポイント）、「一般経費増大」が49.2%（前回比＋0.8ポイント）、「人手不足」が36.0%（前回比＋0.7ポイント）となり、収益の確保に懸念を抱えています。

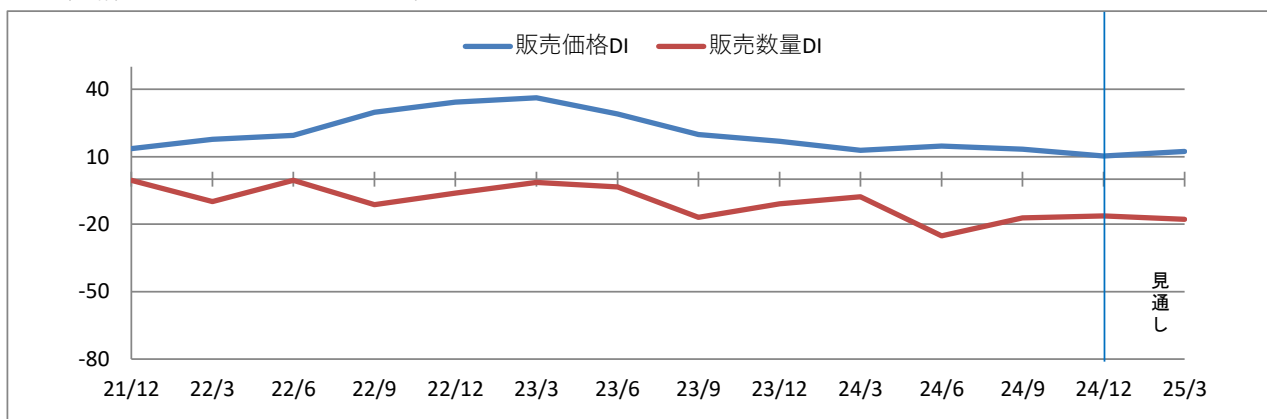
設備投資は「実施中」が14.8%（前回比△1.2ポイント）、「予定あり」が10.7%（前回比△1.0ポイント）で合計25.5%となり、前回調査から設備投資意欲は後退しました。

売上D I・収益D Iの推移

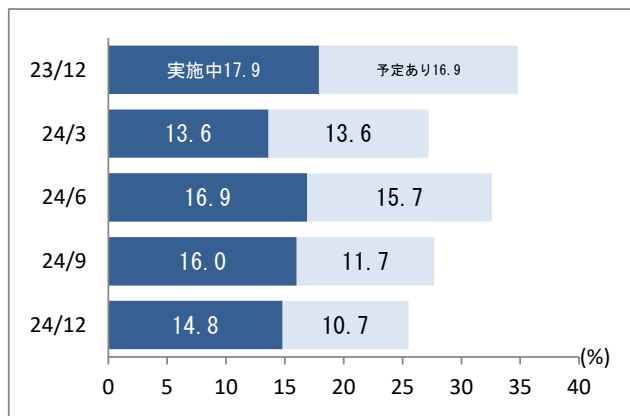
n = 198



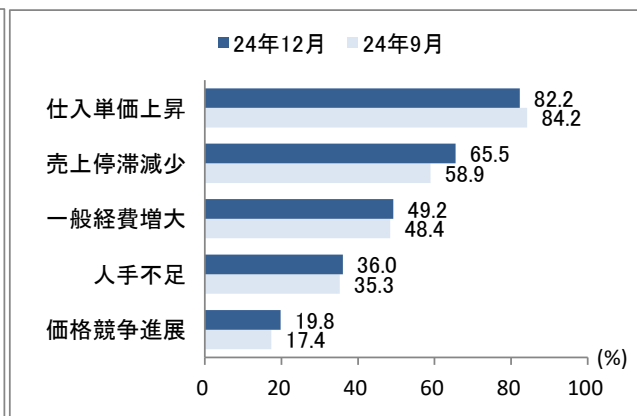
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



卸売業

年末好調 強まる先行き不安

売上D Iは1.4（前回比+7.9ポイント）、収益D Iは0.0（前回比+6.5ポイント）となり、前回調査時の10-12月期の見通しと比べ、売上D Iは6.6ポイン、収益D Iは6.5ポイントそれぞれ上振れしています。

企業からは、「2024年は急激な為替の変動、景気の先行きに不安を抱えた1年となったが、来年もこのような状況が続くと予想され、取り巻く環境は厳しいことが予想される」、「一番の関心は円ドル相場です」との声が聞かれ、コストの上昇が懸念されるなか景気の先行きの決め手はなく不安を抱えています。

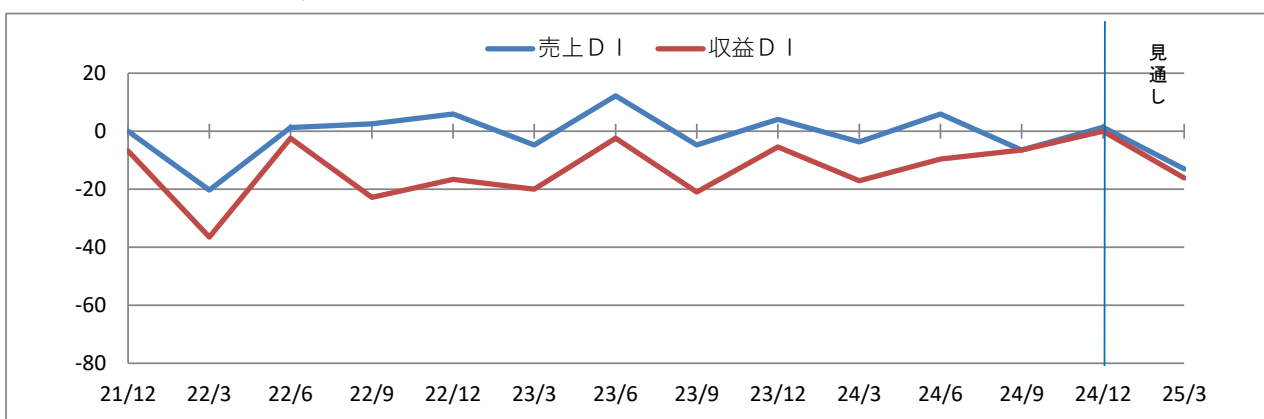
2025年1-3月期は、売上D Iが14.4ポイント、収益D Iが16.1ポイントそれぞれ下落し、販売価格D Iが12.3ポイント、販売数量D Iが8.7ポイントそれぞれ下落すると見込んでいます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が79.7%（前回比+2.1ポイント）、「売上停滞減少」が55.1%（前回比△5.4ポイント）、「一般経費増大」が43.5%（前回比△1.2ポイント）となり、仕入コスト上昇がますます深刻化しています。

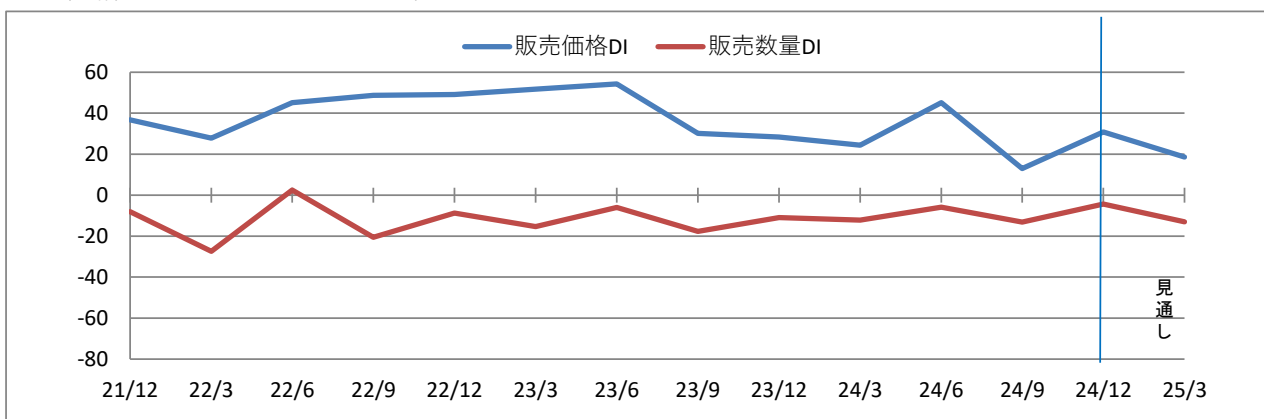
設備投資は「実施中」が10.3%（前回比△0.7ポイント）、「予定あり」が5.9%（前回比△2.3ポイント）で合計16.2%となり、設備投資意欲はさらに後退し、景気の先行き不透明感が設備投資意欲に影響していると思われます。

売上D I・収益D Iの推移

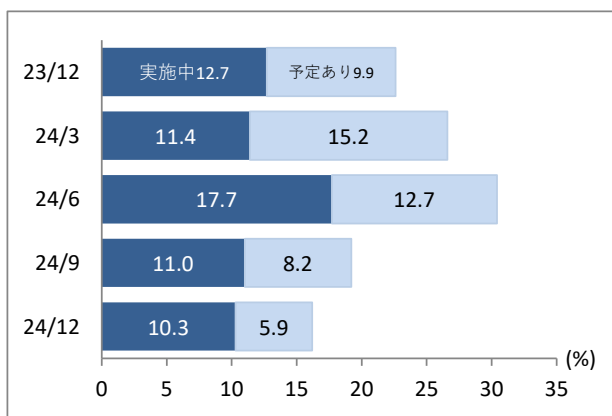
n = 70



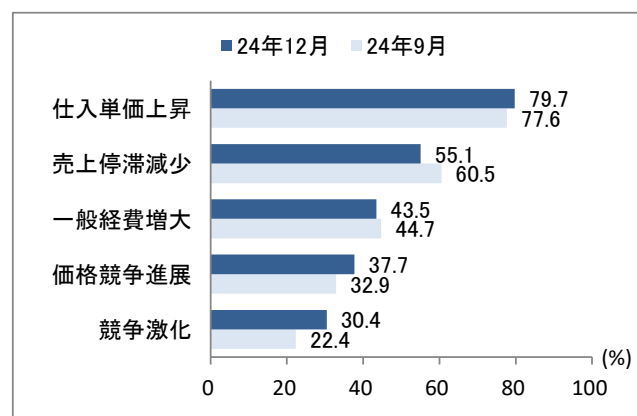
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



小売業

年末商戦好調 警戒する節約志向

売上D Iは7.6（前回比+7.6ポイント）、収益D Iは-9.4（前回比+12.5ポイント）となり、前回調査時の10-12月期の見通しと比べ、売上D Iは5.2ポイント、収益D Iは0.4ポイントそれぞれ上振れました。

販売価格D Iは24.5（前回比△2.3ポイント）、販売数量D Iは-9.4（前回比+0.3ポイント）となり、年末商戦が売上の回復に繋がったと思われます。

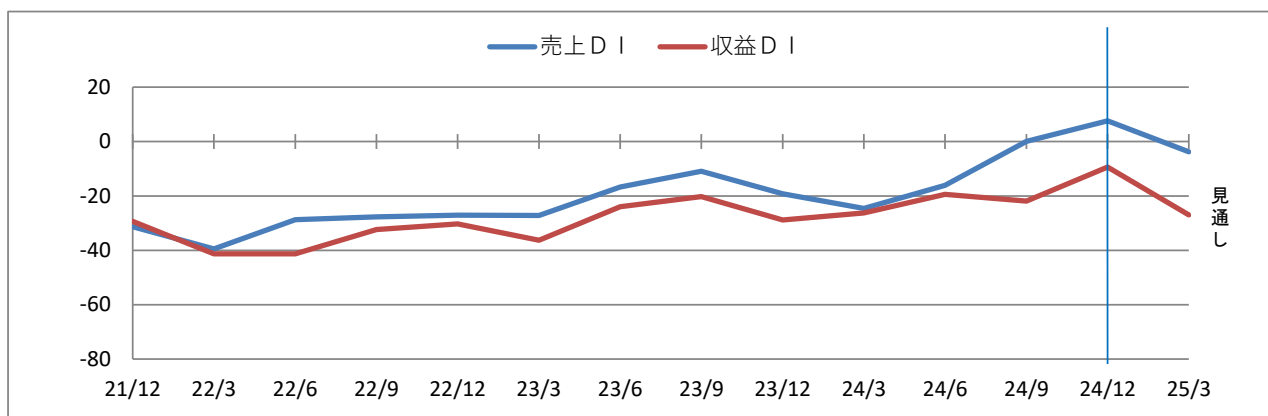
企業からは「人件費高騰、最低時給アップへの対応が毎年続く」など、固定費上昇へ不安な声が聞かれました。2025年1-3月期は、売上D Iが11.4ポイント、収益D Iが17.6ポイントそれぞれ下落し、販売価格D Iは15.1ポイント、販売数量D Iは19.5ポイントそれぞれ下落すると予想し、年末商戦による回復は一時的なものとなり、大きな反動がでると予想しています。

経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が62.7%（前回比△3.2ポイント）、「売上停滞減少」が56.9%（前回比+5.7ポイント）、「一般経費増大」が45.1%（+1.2ポイント）、「ニーズ多様化」が39.2%（前回比△2.3ポイント）となり、メリハリ消費よりも節約志向が先行して安定した個人消費の回復はまだ見通せない状況です。

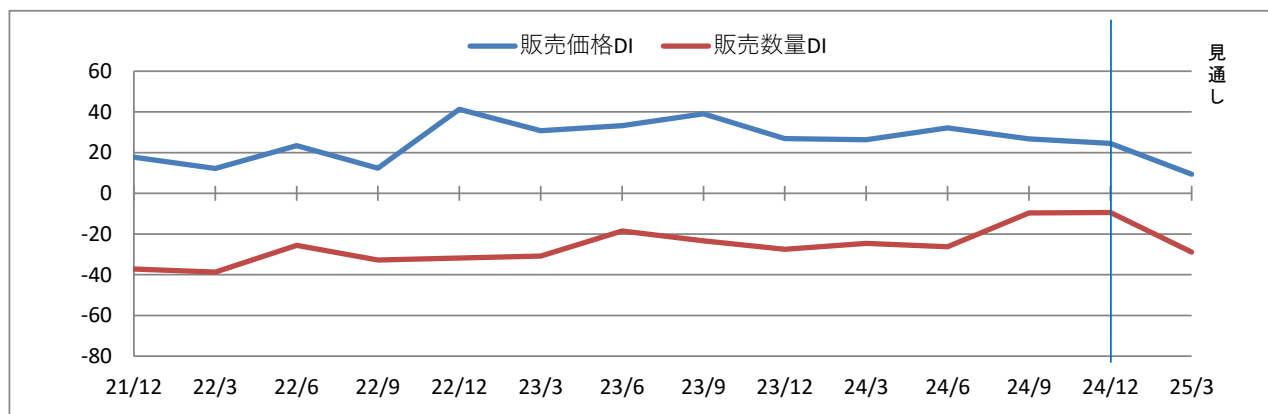
設備投資は「実施中」5.8%（前回比△7.4ポイント）、「予定あり」が7.7%（前回比△2.8ポイント）で合計13.5%となり、設備投資意欲は過去1年で最低となっています。

売上D I・収益D Iの推移

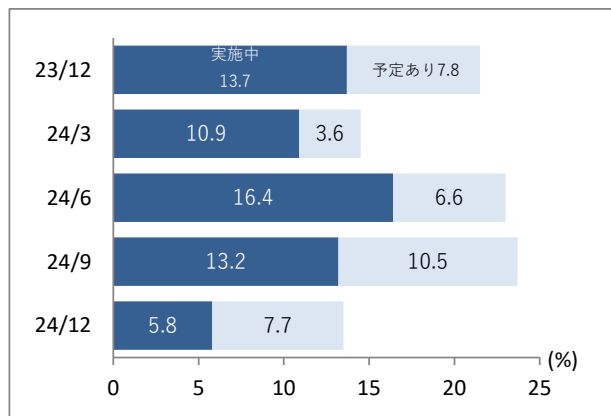
n = 53



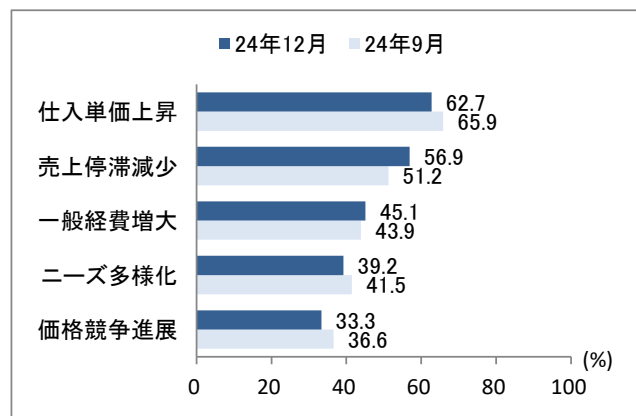
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



飲食業

忘年会好調 追い打ちの天候不順

売上D Iは31.1（前回比+58.4ポイント）、収益D Iは-12.5（前回比+14.8ポイント）と、前回調査時の10-12月期の見通しと比べ、売上D Iは40.2ポイント、収益D Iは14.8ポイントそれぞれ上振れしています。

販売価格D Iは56.2（前回比+65.3ポイント）、販売数量D Iは25.0（前回比+43.2ポイント）となり、忘年会やインバウンド需要による影響が、回復を支えています。

2025年1-3月期は、売上D Iが43.6ポイント、収益D Iは25.0ポイントそれぞれ下落し、販売価格D Iは18.7ポイント、販売数量D Iは43.7ポイントそれぞれ下落すると予想しています。

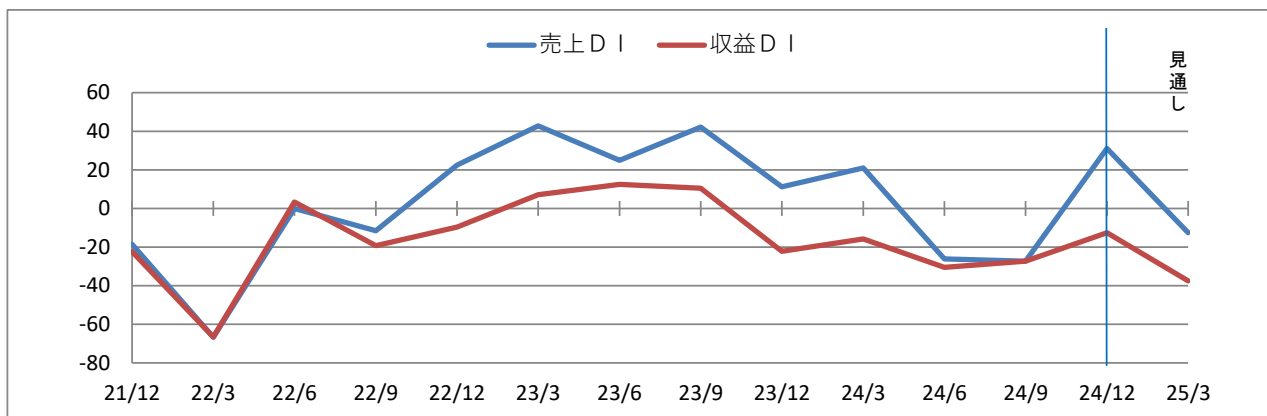
季節要因による影響が回復を支えています、安定的な回復には道半ばと思われます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が86.7%（前回比△13.3ポイント）、「一般経費増大」が73.3%（前回比+18.8ポイント）、「人手不足」が53.3%（前回比△1.2ポイント）となり、天候不順による食材価格の高騰と人手確保に苦戦を強いられています。

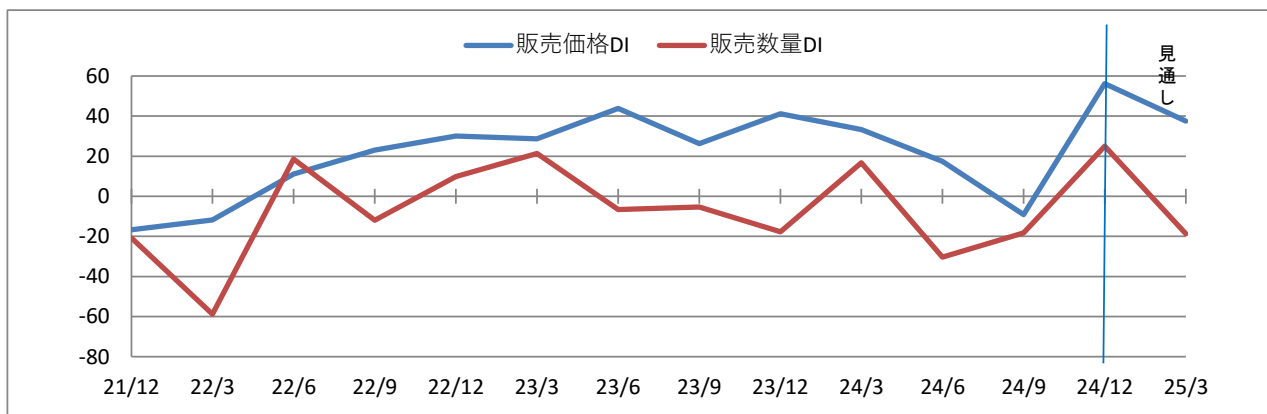
設備投資は「実施中」が18.8%（前回比△8.5ポイント）、「予定あり」が25.0%（前回比+15.9ポイント）で合計43.8%となり、売上の回復が設備投資意欲の上昇に繋がっています。

売上D I・収益D Iの推移

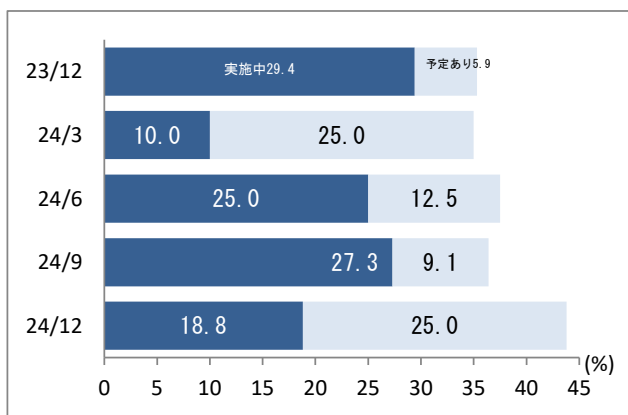
n = 16



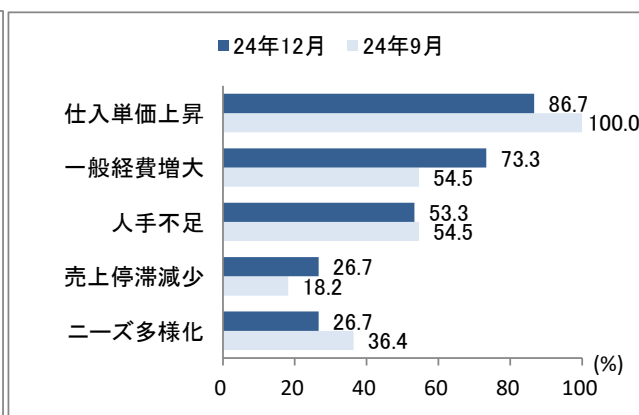
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



建設業

急ぐ万博受注 踏み切れない物件購入

売上D Iは-3.2（前回比+2.0ポイント）、収益D Iは-15.0（前回比△5.5ポイント）と売上D Iは前回から上昇しました。前回調査時の10-12月期の見通しと比べ、売上D Iが12.7ポイント、収益D Iが16.1ポイントそれぞれ下振れしています。

販売価格D Iは5.0（前回比△10.1ポイント）、販売数量D Iは-7.6（前回比△5.2ポイント）となり、価格・数量ともに下落しています。

11月までの大阪の公共工事の累計は、請負金額は前年比増加し好調を維持しています。いよいよ間近に迫ってきた大阪関西万博開催に向け建築工事は急ピッチで進んでおり、好影響を受ける中小企業もあります。

しかし、実質賃金が伸び悩み、金利の先高観もあって、消費者は物件購入に踏み切りづらい環境が続いています。

2025年1-3月期は、売上D Iが0.1ポイント下落し、収益D Iが6.4ポイント上昇すると予想しています。

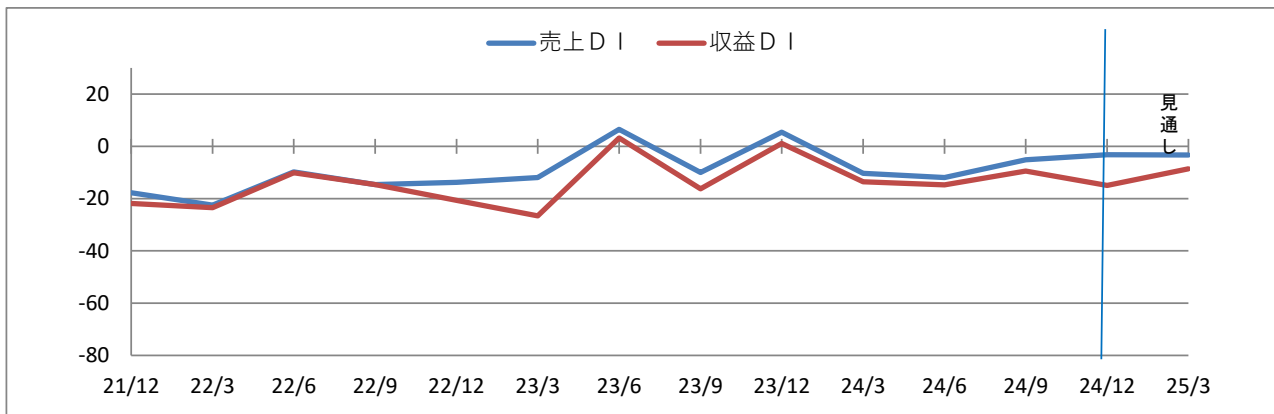
万博後の需要の動向は不透明であり、2025年の賃上げ動向による影響が大きいと思われます。

経営上の問題は、「仕入単価上昇」が73.9%（前回比+5.2ポイント）、「人手不足」が59.8%（前回比+3.2ポイント）と長期に亘る問題点となっています。

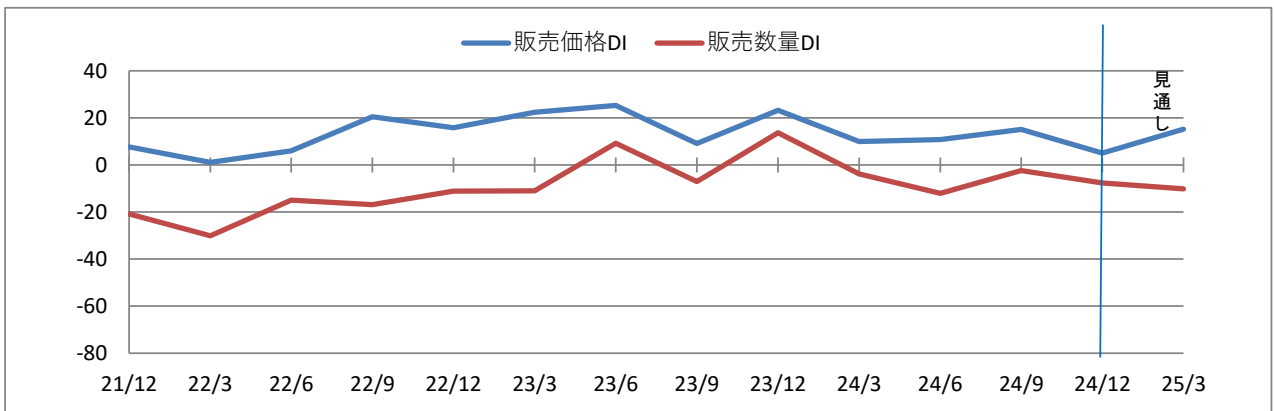
設備投資は「実施中」が13.2%（前回比△0.1ポイント）、「予定あり」が7.7%（前回比△4.5ポイント）で合計20.9%となり、前回調査から設備投資意欲はやや後退しました。

売上D I・収益D Iの推移

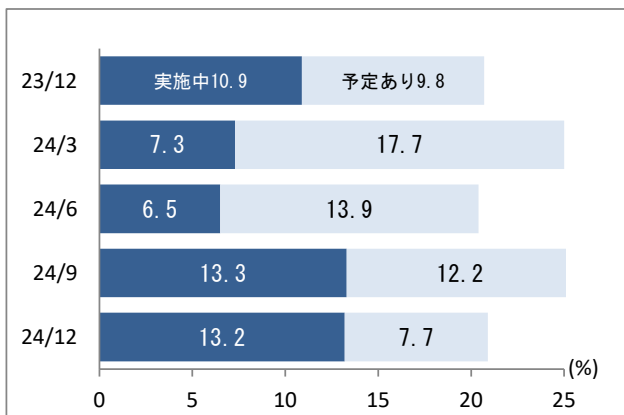
n = 93



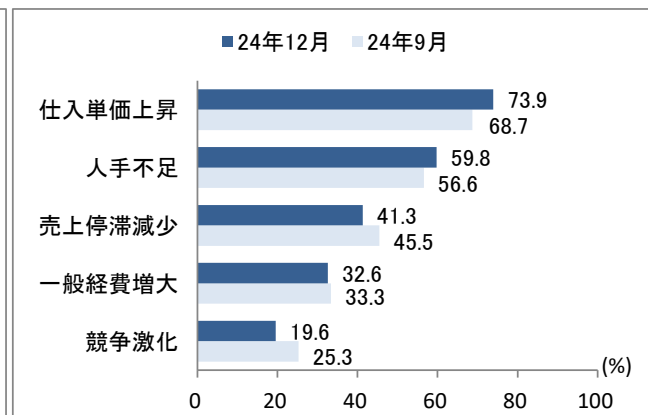
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



サービス業

固定費上昇 苦悩の値上時期

売上D Iは13.9（前回比+15.5ポイント）、収益D Iは6.3（前回比+4.7ポイント）となり、前回調査時の10-12月の見通しを売上D Iは7.5ポイント、収益D Iは6.3ポイントそれぞれ上振れしています。

販売価格D Iは10.9（前回比+1.3ポイント）、販売数量D Iは11.1（前回比+25.7ポイント）となり、数量が急上昇しました。値上げのタイミングが難しく、競合他社の動向に神経を使っています。

インバウンド需要に支えられ宿泊業は好調ですが、年末に業況が上向くものの依然続く物価高により国内需要は盛り上がりには欠け、先行きを厳しく見通す企業が多くなっています。

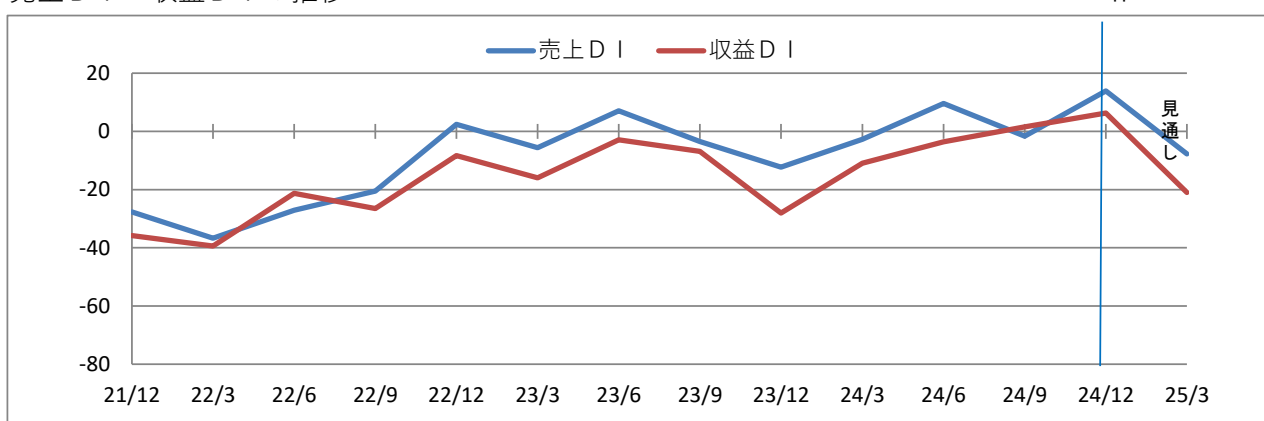
企業からは、「人件費が上がりすぎて、値上げしたいがなかなか難しい」、「販売単価の値上げを考えているが、競合他社が値上げをしてくるのか、値上げをしてこなければ仕事が減る可能性が大きい」との声が聞かれ、価格引上げのタイミングに苦慮しています。

2025年1-3月期は、売上D Iが21.6ポイント、収益D Iは27.3ポイントそれぞれ下落し、販売価格D Iが12.8ポイント、販売数量D Iが18.4ポイントと、それぞれ下落すると予想しています。

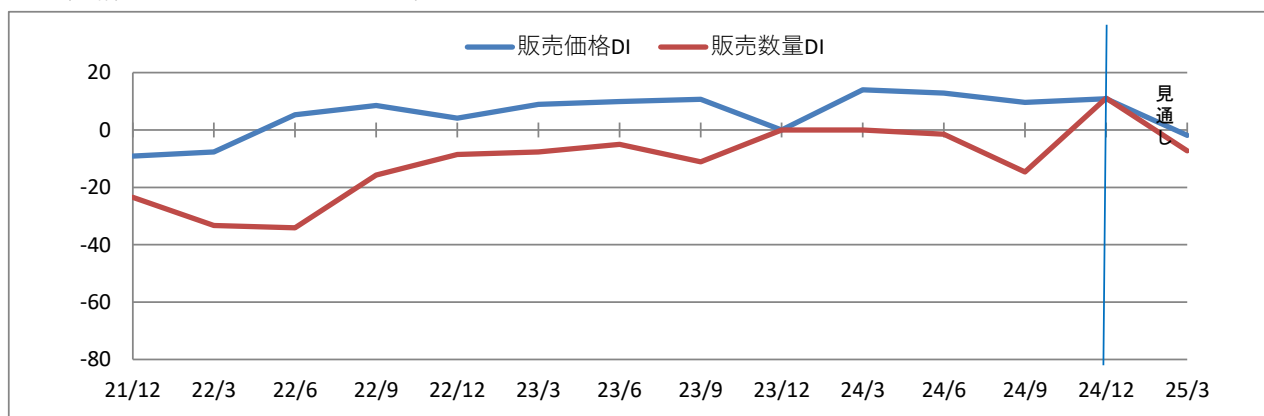
経営上の問題点は、「一般経費増大」が69.4%（前回比+8.7ポイント）、「人手不足」が53.2%（前回比△10.7ポイント）、「仕入単価上昇」が48.4%（前回比+20.5ポイント）となりました。

設備投資は「実施中」が9.2%（前回比△5.3ポイント）、「予定あり」が16.9%（前回比+2.4ポイント）で合計26.1%となり、設備投資意欲は横ばいに推移しています。

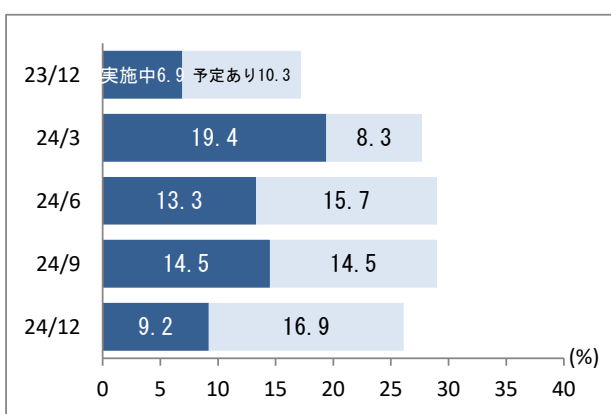
売上D I・収益D Iの推移



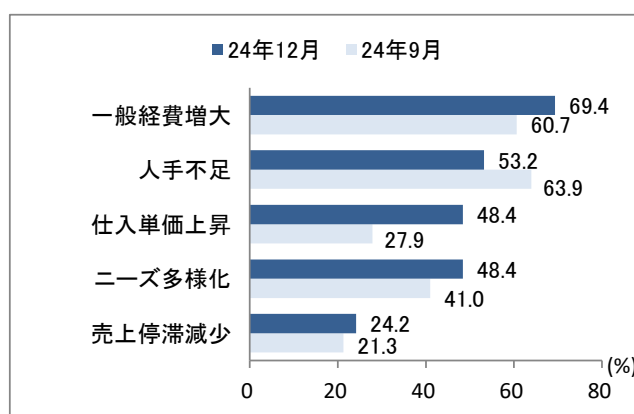
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



運輸業

年末商戦効果大 軌道に乗るか？

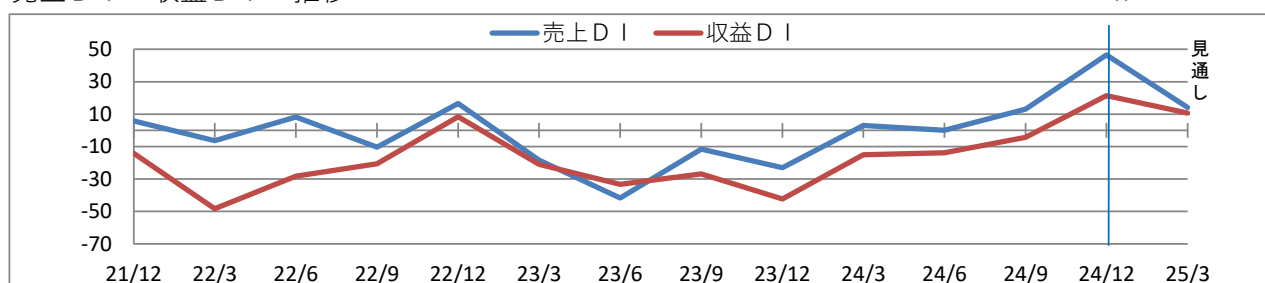
売上D Iは46.5（前回比+33.4ポイント）、収益D Iは21.4（前回比+25.7ポイント）となりました。

前回調査時の10-12月の見通しから、売上D Iは11.6ポイント、収益D Iは4.0ポイントそれぞれ上振れし、2025年1-3月期は、売上D Iが32.3ポイント、収益D Iは10.7ポイントそれぞれ下落すると予想しています。

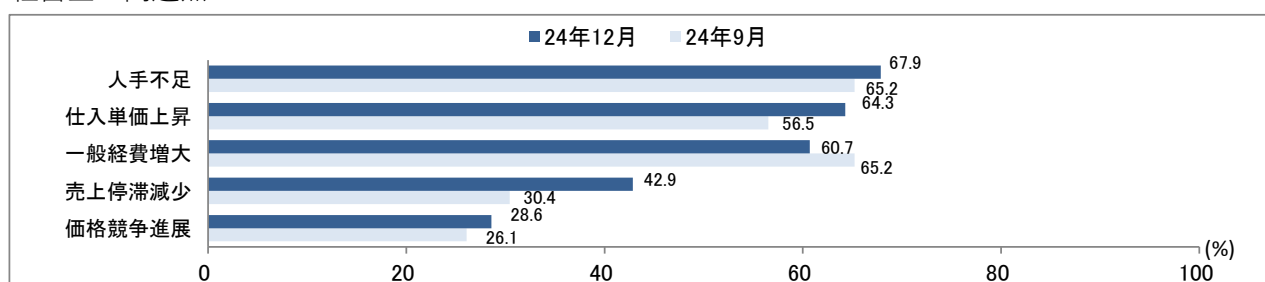
年末商戦による影響により、売上・収益ともに大きく回復しました。先行きは、12月の反動と燃料価格の高止まりにより大きく落ち込みむと予想しています。

経営上の問題点は、「人手不足」が67.9%、「仕入単価上昇」が64.3%「一般経費増大」が60.7%となりました。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点



不動産業

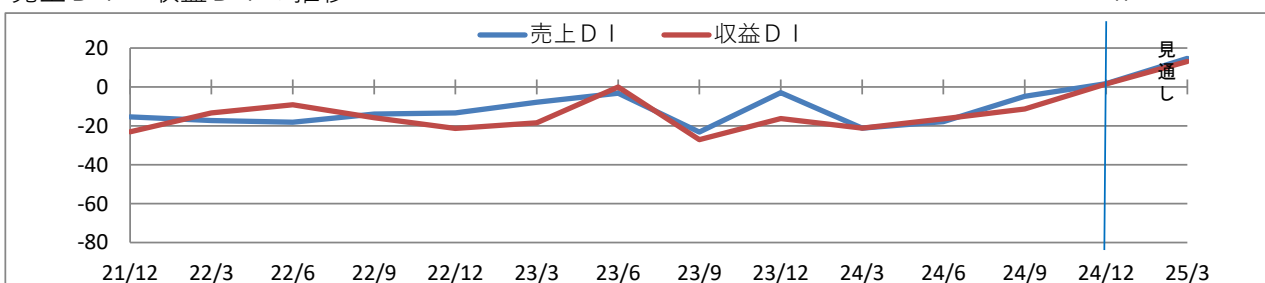
価格高止まり 少ない商品在庫

売上D Iは1.7（前回比+6.5ポイント）、収益D Iは1.6（前回比+13.0ポイント）とそれぞれ上昇し、前回調査時の10-12月期の見通しから、売上D Iは5.0ポイント、収益D Iは8.2ポイントそれぞれ上振れました。

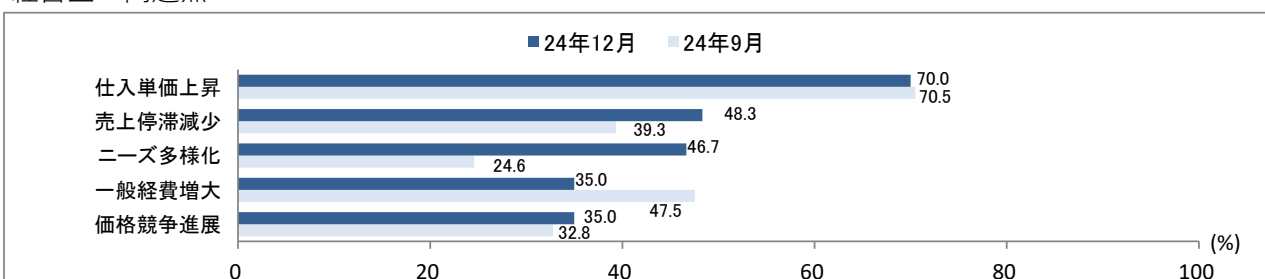
高額な物件購入は難しく、商品物件の在庫は乏しい状況です。工場用地やマンション価格は高止まりが続いており、収益物件は6%の利回りの確保が難しい状況です。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が70.0%と最大の問題点ですが、顧客ニーズの多様化が一層進み、価格以外への対応にも迫られています。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点

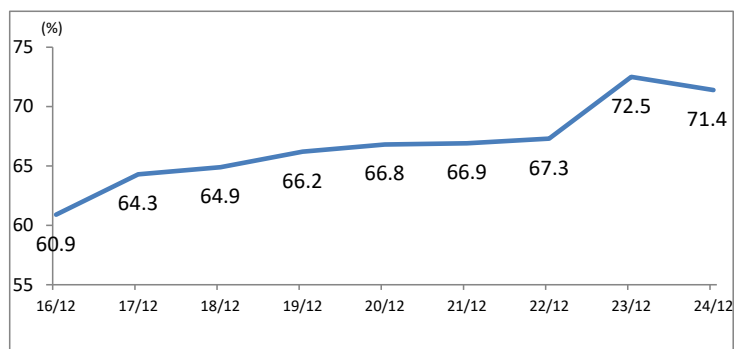


冬季賞与支給状況

前年比下落 △1.1ポイント 企業間バラツキ

冬季賞与を支給する企業の推移

n=581



冬季賞与を支給する企業は、全業種平均で71.4%（前年比△1.1ポイント）となりました。

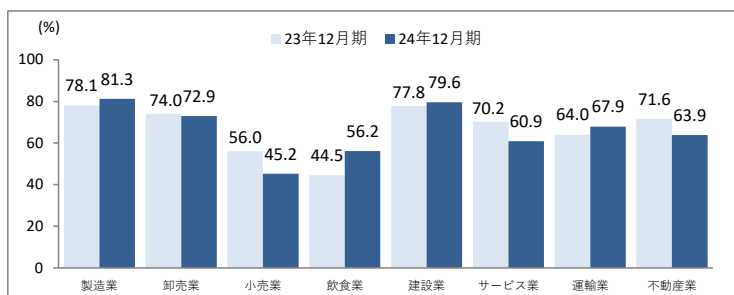
2016年の冬季賞与以降、6割超で上昇していましたが、今回は下落しています。

人手不足を背景に上昇を続けていた冬季賞与ですが、2024年の賃上げ実施し後も止まらない仕入価格の上昇を背景に、一時金支給にブレーキがかかりました。

業種別では、製造業が81.3%、建設業が79.6%、卸売業が72.9%となり、苦しい収益環境の中でも懸命に支給する姿が見られます。

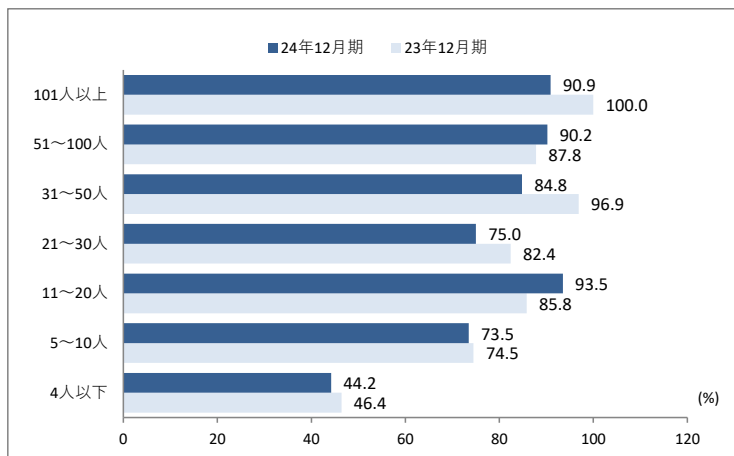
冬季賞与を支給する企業の割合（業種別）

n=581



冬季賞与を支給する企業の割合（従業員数別）

n=581

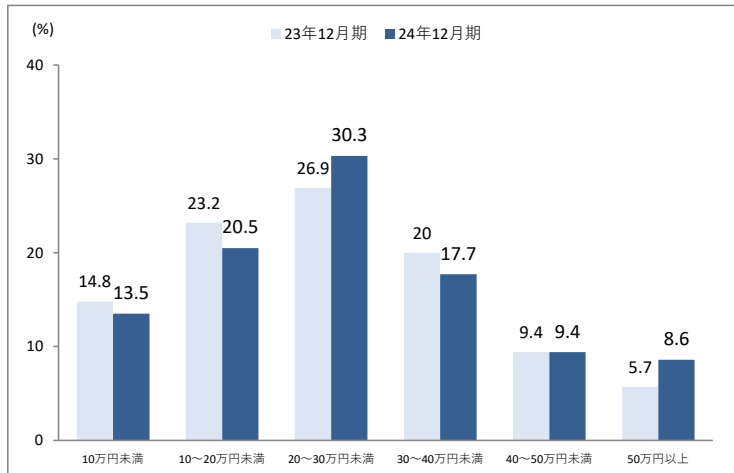


従業員数別で見ると、従業員数「50人超」や「11~20人」では9割以上となり、従業員数の維持に懸命です。

従業員4人以下は「支給する」は44.2%となりましたが、身内だけで経営する企業が多いことが要因と思われる。

賞与の平均支給金額別グラフ

n=385



賞与平均支給額では、「20~30万円未満」が30.3%（前回比+3.4ポイント）と上昇する一方、「10~20万円未満」が20.5%（前回比△2.7ポイント）、「30~40万円未満」が17.7%（前回比△2.3ポイント）、

「40~50万円未満」が9.4%（横這い）、「50万円以上」が8.6%（前回比+2.9ポイント）となり、企業によってバラツキが見られました。

賞与の支給金額では、収益環境が悪化する中、苦渋の決断をしていると思われる。